

ちょっと意外な酒類の統計、あまり知られていない統計データを、ビジュアルな資料でご紹介するコーナー。当社で蓄積しているデータを不定期連載でお届けします。

今回は、「お酒の値段、1992→2022の30年の俯瞰」です。

2023年10月からの酒税変更後の店頭価格はまだ統計に現れませんが、2022年までのお酒の値段を俯瞰してみます。

清酒・焼酎・ワイン・ウイスキーなど個別酒類の価格統計には、①「小売物価統計」（総務省）、②「国内企業物価指数」（日銀）、③「一世帯当たり支出額」（総務省）などがあります。また、清酒の総出荷額は④「清酒製造業の概況」（国税庁）、⑤「工業統計」（経産省）があります。ここでは、長期データを開覧しやすい①「小売物価統計」を資料化しました。

●スライド1・清酒・焼酎・ビールの小売価格の30年の推移

統計対象は、清酒の場合、「一升びん」が「2L紙パック」に変更（2003年）、焼酎の場合、「甲類」が「本格焼酎」に変更（2001年）など、その年代の「主流消費」に合わせて変更されます。（変更の詳細はスライド参照）

統計対象の変更の背景にある「主流消費」とは、例えば清酒の場合、1990年の全出荷の約65%が「一升びん」だったものが2000年に約35%に減少、逆に「紙パック」は1990年の約15%が2000年に約40%まで増加したことがあります。

なお、ワイン、ウイスキーなどの小売物価統計の数字もあるのですが、統計対象商品が大きく変わって長期データとしては引用しにくいので今回は記載していません。また、清酒には記載の「普通酒（旧、2級・佳撰）」以外に、かつては「特級・特撰」「1級・上撰」の物価統計もありましたが、2007年に廃止されています。

●スライド2・10年ごとの数字、比較のために一部は同容量に換算

たとえば清酒の場合、現在「2L紙パック」なので、それまでと同じ容量の1.8Lに換算した数字を記載しています。

参考の数字として、「輸出清酒」の平均単価と、「物価の優等生」と言われる「タマゴ」の小売物価統計も併記しました。

●スライド3・数字をグラフ化

「1992年 = 100」としてグラフにすると、タマゴよりも、焼酎・ビールの価格上昇が少ないのがわかります。

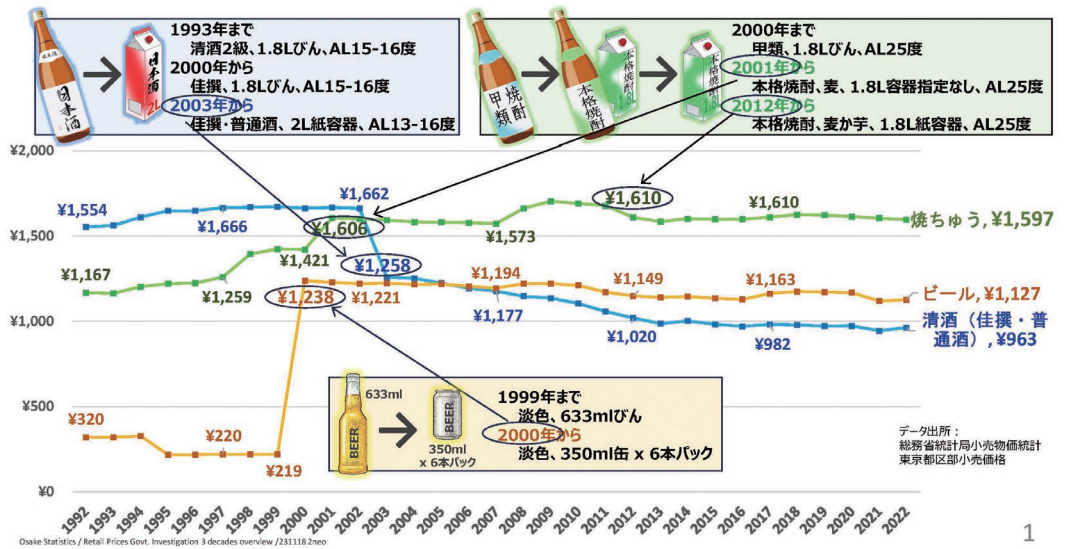
清酒はなんと値下がり（30年で100 → 56、この間、消費税が7%も上がっているのに！）。タマゴより物価の優等生！？です。一方、輸出清酒は大幅上昇（100 → 345）で、とてもありがたい状況ですが、今後の海外市場の安定的拡大のためは、この内外格差（安すぎる国内価格）は改善すべき課題でしょう。

清酒は、統計対象が紙パックになったところから大きく小売価格を下げていますが、本格焼酎は同じ紙パックであるのに、価格を維持しています。

今回のデータは年代によるサンプル対象の違いもあり単純比較はできませんが、いろいろなが読み取れると思います。

(text = t.kita)

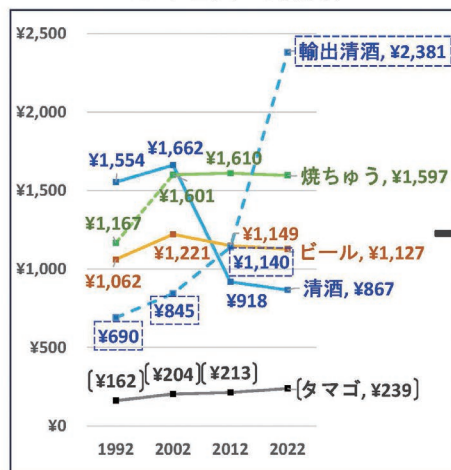
小売物価統計にみる、お酒価格の30年



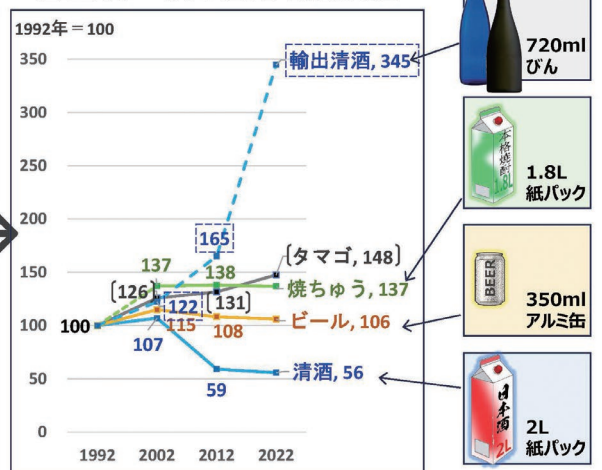
小売物価統計にみる、お酒価格の30年

	1992年 (消費税=3%)	2002年 (消費税=5%)	2012年 (消費税=5%)	2022年 (消費税=10%)
清酒	1,554円/1.8L (一升びん佳撰)	1,662円/1.8L (一升びん佳撰)	1,020円/2L (2L紙パック普通酒) →918円/1.8L換算	963円/2L (2L紙パック普通酒) →867円/1.8L換算
焼酎	1,167円/甲類・1.8L (一升びん)	1,601円/本格麦・1.8L (1.8L・容器指定なし)	1,610円/本格麦か芋・1.8L (1.8L紙パック)	1,597円/本格麦か芋・1.8L (1.8L紙パック)
ビール	320円/633ml →1,062円/6缶パック換算	1,221円/6缶パック	1,149円/6缶パック	1,127円/6缶パック
参考・輸出清酒	690円/1.8L	845円/1.8L	1,140円/1.8L	2,381円/1.8L
参考・「物価の優等生」タマゴ	270円/1kg →162円/10個パック換算	204円/10個パック	213円/10個パック	239円/10個パック

**容量統一後の価格
10年ピッチの観察**



**「1992年 = 100」として
容量統一後の価格を指数化**



この資料は、きた産業のホームページでもご覧いただけます。

<https://kitasangyo.com/e-academy/osake-statistics.html>